

# 慶應志木会会報

慶應志木会(慶應義塾志木高等学校同窓会)

1994(秋・冬号)



• vol.12



留任のご挨拶

鐵野 善資

本年、9月末日をもって2期4年の任期を私なりに務めさせていただきましたが、その間、志木会の先輩諸氏からはいろいろとご協力を賜り、まことにありがとうございました。10月から3期目のお役目を仰せつかったばかりのところですが、今後とも私なりに一所懸命に務める所存です。宜しく願い申し上げます。

以前にも、志木高OBのご父兄がPTAの会長などをお務めいただいたことがありますが、現在も、会長が鎌田政稔さん、副会長が谷口法夫さんで、役員を務めていただいている方々もあります。心強い限りです。

たまたま「文藝春秋」の11月号に載った拙文をお読みいただいた方もおありのようですが、私は1961年度、大学院修士課程2年目に、ドイツ語教師として初めて志木高の教壇に立たせていただきました。また、専任が法学部であることもあって、歴代校長のすべての方を存じ上げておりますのも思えば珍しいことではあります。鳥の刷り込み現象ほどではないにせよ、志木高が常に私の意識に上っていたことは確かですし、思い返せば、ほとんどのドイツ語教師が、私との関わりで志木高のドイツ語を担当されたのもこのご縁によるものです。また、過去何代かの先輩校長諸氏にはいつか何らかの形で志木高のドイツ語・フランス語のレヴェル・アップがはかれないだろうかということをもちかけたこともありました。今やその心配もなくなりつつあります。現在、志木高で多数の言語が学べるようになりましたが、将来、卒業生がどの分野に進むにせよ、決して無駄にはならないと考えています。自分の専門分野があり、そして、心得ている言語があることによって、その活動範囲が明確になるでしょうし、他人の追従を許さない独自の活躍が可能になるでしょう。英語ができれば、商売がなんとかできるだろうという時代はもう終わったと言ってもよいと思います。

皆さんの後輩は大学でもなかなか好評で、在校生も順調に成長しています。今後とも志木高の後輩のためにご尽力くださいますようお願いいたします。